

医療安全と質を保証する患者状態適応型パス (PCAPS)

H26 年度 PCAPS 研究会 中間シンポジウム

PCAPS の実装と臨床分析

プログラム

日時：2014 年 9 月 27 日（土） 10:00～16:30（終了予定）

会場：東京大学 工学部 2 号館 213 号室

はじめに

臨床知識構造化手法 PCAPS (Patient Condition Adaptive Path System: 患者状態適応型パス) は、状態適応型介入という医療の本質を反映した臨床知識の構造モデルを提示しており、その構造に基づき、現実の臨床プロセスを設計した知識コンテンツを開発できます。それら知識コンテンツを標準化/電子化し関係者が利用できる条件を整えることで、効率的/効果的に臨床知識の再利用を実現することができます。PCAPS を活用することで臨床プロセスの実施記録が構造をもって残るため、これまでは困難であった分析が可能となり、多様な分析結果の活用につながります。これら一連の臨床知識コンテンツの活用により、医療経営改善・臨床改善がすすみ、臨床知識コンテンツそのものの改善もすすみます。PCAPS は、「医療社会システム」を実現するためのコアツールです。

標準化・最適化された構造化臨床知識は、世に多くの知識が氾濫し、多様な知識・情報提供サービスがビジネスとして成立するなかで、安全・安心で豊かな社会の実現の基盤に組み込まれるべき、社会が真に求めている知識形態のひとつといえるのではないのでしょうか。

そうした社会ニーズを強く感じながら、PCAPS 研究会は壮大な構想のもとに開発研究を進めてきました。今年度から次年度にかけて、臨床の叡智である「PCAPS 臨床知識コンテンツ」と「実臨床の場」をリンクし知識の再利用を実現するために開発された PCAPS-Administrator が実際の臨床現場で運用され始めます。われわれは、PCAPS-Administrator を通して蓄積される構造化サマリーデータを用いて多様な臨床分析を実現する PCAPS-Analyzer の開発を開始しました。PCAPS 臨床知識コンテンツを実際に運用することで、各医療領域の質保証されたチーム医療を遂行する臨床マネジメントシステムを実現できます。このような臨床の質マネジメントを地域・病院・診療所・在宅・介護施設等で実現させるため、多様な臨床知識コンテンツの整備と、臨床分析手法の開発が、PCAPS 研究会で進められています。

本シンポジウムでは、PCAPS 実運用研究、PCAPS 導入準備方法、PCAPS を用いた多様な臨床分析、また PCAPS が追求している医療の質改善を行う重要なしくみである質評価構造モデルと質評価指標に関する開発研究、診療ガイドラインの開発・活用・改善への貢献について、平成 26 年度の間報告をいたします。

PCAPS 研究会 代表：水流聡子

顧問：飯塚悦功

アドバイザー：棟近雅彦

※PCAPS (Patient Condition Adaptive Path System : 患者状態適応型パス)

主催：PCAPS 研究会、東京大学工学系研究科 医療社会システム工学寄付講座

後援：PCAPS-IMT コンソーシアム

研究助成：平成 25 年度厚生労働科研第 3 次対がん総合戦略研究事業（若尾班）

平成 26 年度厚生労働科研地域医療基盤開発推進研究事業（中山班）

司会：加藤省吾・下野僚子（東京大学）

午前の部

10:00-10:10

I：統括報告

水流聡子（東京大学）

10:10-11:00

II：PCAPS 実装準備状況

- 聖マリア病院
 - 飯塚病院
 - 禎心会病院
 - トヨタ記念病院
 - 大久野病院
- 荒木昭輝(聖マリア病院)
名取良弘(飯塚病院)
伊東敏弘(禎心会病院)
吉原雅人・田野翔(トヨタ記念病院)
進藤晃(大久野病院)

11:00-11:20

III：PCAPS Administrator & 電子カルテ デモセッション

- PCAPS Administrator
 - 電子カルテ
- 京セラコミュニケーションシステム株式会社
株式会社マックスシステム

11:20-11:50

IV：ガイドラインとPCAPS

- 乳がん手術とリンパ浮腫
 - 褥瘡コンテンツの作成状況と検証調査-ガイドラインを活用した局所管理
- 北村薫(ナグモクリニック福岡)
黒木ひろみ(聖路加国際病院)

~~~~~  
昼休み(55 分)  
~~~~~

午後の部

12:45-13:45

V：パネルディスカッション

- がん診療体制の質評価・改善システム ～意見交換し共通認識を持つ体制に着目して～
- パネルリーダー：小口秀紀(トヨタ記念病院)、名取良弘(飯塚病院)
 - 調査結果報告：水流聡子(東京大学)
 - パネリスト：飯塚悦功(東京大学)・矢野真(日本赤十字社)・吉岡慎一(兵庫県立西宮病院)・
羽藤慎二(四国がんセンター)・秋山聖子(仙台医療センター)・ほか

13:45-15:00

VI：PCAPS 臨床分析に関する研究報告

- リハビリコンテンツの実装と分析可能性
 - リンパ浮腫初期診断に関する実態調査
 - 呼吸器内科：喘息発作・市中肺炎
 - 呼吸器内科：COPD 増悪入院
 - 患者が求めるがん医療(患者調査報告)
- 井手睦(聖マリア病院)
作田裕美(大阪市立大学)
中岡大士・蝶名林直彦(聖路加国際病院)
茂木孝(日本医科大学呼吸ケアクリニック)
松本陽子(NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会)・
天野慎介(一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン)



【シンポジウム会場】

本 会 場 ：東京大学本郷キャンパス工学部 2 号館 213 号室

ポスター会場：東京大学本郷キャンパス工学部 2 号館 213 号室の廊下

研究会メンバー用昼食会場：工学部 3 号館 5 階 5A04 号室・5A05 号室・5A11 号室

研究会メンバー・関係者用懇親会会場：工学部 3 号館 6 階

シンポジウム運営組織

代表	水流聡子（東京大学）	
アドバイザー	棟近雅彦（早稲田大学）	
顧問	飯塚悦功（東京大学）	
運営 スタッフ	<PCAPS 事務局> 加藤省吾（東京大学） 下野僚子（東京大学） 大森美保（東京大学） 谷崎浩一（東京大学） 佐藤典子（東京大学）	<学生スタッフ> 太田耕右（東京大学修士課程） 高尾璃加（東京大学修士課程） 坪根永（東京大学工学部） 仮屋崎真希（東京大学工学部） 小嶋純平（東京大学工学部） 吉田晴貴（東京大学工学部）

問い合わせ先：

PCAPS 事務局

E-mail：Office_PCAPS@umin.ac.jp

TEL：03-5841-7301 FAX：03-5841-7276

本研究事業 HP：<http://plaza.umin.ac.jp/~A-epath/index.html>

注意：カメラ撮影はご遠慮ください。PCAPS は各種特許申請済みです。